

< 全体講評 >

全体としては、昨年より難易度は“やや上昇した”という印象です。難易度が上昇した要因としては、4 事例とも、得点しにくい問題だったことにあります。事例 1 は、まったく何を解答してよいかわからないという問題はありませんでしたが、解答を特定しにくい問題がほとんどでした。事例 2 は、解答に使用する根拠はそれなりに見つかりますが、各問題との対応付けの判断とそれに基づく解答の編集を 80 分間でやりきるのはかなり難しい内容でした。事例 3 は、問題本文中の根拠を使い切ることが難しかったと思います。最後の事例 4 も、出題形式、内容が前年までと異なりとまどった受験生が多かったと思われます。

以上が全体的な印象です。これまで行われてきた 2 次筆記試験と比較して、難易度や出題内容の変化はもちろんありますが、合格するために必要な対応はなんら変わりません。解答として可能性があるものを極力解答にもりこむなど、配点が大きな問題で大事故を起こさない対応ができれば、十分にチャンスがある問題であったといえます。